

三島中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎学力の定着を図り、個に応じた指導の推進
- ②主体的に学習に取り組む習慣をつけるための家庭学習の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
大塚みどり	校長 松永 貴史 教頭 藤田 勝久 教務 畠中 剛喜 1学年主任 福田 恵 2学年主任 森下 由美 3学年主任 国語科主任 大塚みどり 数学科主任 坂東 哲弥

校長

松永 貴史

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科で基礎・基本となるスキルがある程度身につけている。 ○1人1台端末を使い、調べたり、まとめたりすることができる。 ○朝の読書の時間は集中して本や阿波っ子タイムズを読んだり、阿波っ子タイムズを読んだ後は感想を生活記録に書いたりして意欲的に取り組んでいる。 ●各教科で身につけたいスキルを使った応用ができない。	①基礎的・基本的な知識・技能を習得することができる。 ②プリントやワーク等の基本的な問題を確実に解くことができる。	①ステップアップテストで明らかになった課題を計画的に授業に取り入れる。 ②つまづいている生徒に対しては、個別指導をしたり、スタディサプリを使って苦手なところを復習したりする等の機会を設ける。 ③学習のゴールを提示し、どのような点を評価していくのかを考える。	①2学期も1学期の取組を継続しつつ、ステップアップテストや全国学力・学習状況調査で明らかになった課題を計画的に授業等に取り入れる。	①各教科とも授業の目標と一連の学習の流れを示し、見直しをもって学習に取り組むことができた。 ②生徒一人一人が疑問に感じた点について、1人1台端末を活用した学習等により、自ら課題を解決し、理解力を深めることができた。	・次年度も、各教科で授業の目標と学習の見直しをもった取組を継続する。 ・教師の授業力向上を目指し、今まで以上にICTの活用方法を身につける。 ・今まで以上に表現活動に取り組ませるために、基礎・基本となる知識・技能を習得させ、評価を行う。 ・次年度は、早い段階で「知識・技能」の評価方法について研修の機会をもつ。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○方法や手順が示されている学習に集中して取り組むことができる。 ○自らの課題をみつけ、その課題を解決するための方法として、グループ活動に取り組んだり、学習アプリを使って学びを深めたりすることができる。 ●自分の考えを相手にわかりやすく伝えることが十分でない。 ●相手に自分の考えを伝えることに苦手意識をもっている生徒が少なからずいる。	①自分の考えを伝えることの大切さを理解するとともに、なぜそう考えたのか根拠や理由を明らかにして、自分の考えをわかりやすく表現することができる。 ②自分の考えだけにとどまらず、仲間とともに共有することができる。	①1人1台端末等を活用し、生徒自身の考えを表現できる機会を増やす。 ②定期テストに思考力や表現力を問う問題を出題する。 ③授業力向上のための研修や公開授業を実施する。(「まなびウィーク」:2回以上、研修会:2回以上) ④ペア学習やグループ学習を通して他者と協働して解決することを学ぶ。	①校内研修等で、「思考力・判断力・表現力等」の力を伸ばす学習方法について、考える時間を設ける。	①思考力・判断力・表現力等の育成を図れるような内容を取り入れた定期テストやワークシートの作成ができ、板書等の工夫もできた。 ②事前に用意しておいた評価シートに基づき相互参観することで、授業者の良い点や改善点について焦点化することができた。	・授業力向上のために「まなびウィーク」も含め、研修内容を検討する。 ・次年度は、学校独自の評価シートを作成し、常に見直すことで、指導力改善に取り組む。 ・次年度は、早い段階で「思考力・判断力・表現力」の評価方法の研修の機会をもつ。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた態度で話を聞いたり、与えられた課題に一生懸命取り組んだりすることができる。 ○学習の準備や板書をノートに写す等、基本的な学習態度がほぼ定着しており、与えられた課題に真面目に取り組むことができる。 ●学習に意欲的に取り組むのに時間がかかり、家庭学習のやり方や習慣が十分でない生徒が見られる。 ●自分から進んで質問する等、主体的に学習に取り組むことのできない生徒が見られる。	①テスト前には生活記録をもとに学習計画表を作成し、計画的に勉強することができる。 ②学習内容を家庭学習で、毎日復習することができる。 ③各教科の学習内容で自分の苦手なところや理解できていないところを粘り強く身につけようとしている。	①教員が自尊感情を高めたり、ポジティブ行動支援を心がけたりする。 ②学習アプリの活用や「GoGoタイム」の実施を通して、意欲を高める。 ③スタディサプリの使用頻度を定期的に確認し、積極的な活用につなげていく。	①生徒自らが学習課題を解決するツールとして、スタディサプリをより効果的に活用させるための方策を検討する。	①テスト前に生活記録を活用して、学習計画を立てることができなかった。 ②生徒が自主的に質問できる「GoGoタイム」の時間を設けることで、生徒自らが課題をみつけ、課題解決に向かう態度が見られた。 ③今年度は、毎週金曜日の朝の学習時間に、スタディサプリを継続的に活用することができた。	・次年度も見直した形で「GoGoタイム」を継続し、学力向上につながるような手立てを考え、全職員で取り組んでいく。 ・次年度もスタディサプリを授業や家庭学習で有効活用できるような工夫をする。 ・次年度は、早い段階で「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法について研修の機会をもつ。 ・教育課程の改善・充実を図るためにPDCAサイクルについて研修する。

令和6年度 学力向上ロードマップ

